[今野]

お電話かわりました。総務課今野です。

[野村]

おはようございます。野村と申します。お世話になります。この前、一昨日でしたか、昨日でしたか、お電話で、開示のご足労いただいて、先ほど 14 日だったかな、来週ということで約束させてもらったんですけども、ちょっと思い直してですね、これやっぱり町長に入ってもらった方がいい。なぜかというと、前回ね、打ち合わせ記録を、記憶もあるかと思いますけど、あれ、副町長相当感情的ですよ。もう全然話がかみ合ってない。

[今野]

いや、そんなことないと思いますけど。

[野村]

あなたは、そう言う印象でしょうけど、僕は全く噛み合ってないと思う。

[今野]

そうですかね。

[野村]

お互いに記録取ってることなんでね。これは、僕も後でまとめますよ。あのね、相当、前回の内容というのは、町側として、相当、問題があると思ってる。それを僕がどうまとめて、出すかは、また考えますけども。同じように、あんな感情的で、人の意見を全く聞かないのやり方で。なおかつ、僕が、あの時に、あの時に、ああいう形になったのは、何度も言ってる通り、本来、副町長は関係ないわけなんですよ。町長関係ない、副町長は関係ないというのは、担当者はあくまでも公文書開示の担当者は、あくまでも総務、総務の課長であって、渡辺さんであって、それに対して、副町長関係なしに、町長が判子を押したという、文書の流れになってて、本来の事務の流れとしてはですよ。そこで副町長なんか関係ないわけですよ。

[野村]

にもかかわらず、当初、私がね、１回２回出しましたよ。２回出したわけですよ。１回目のときから、散々、その理由を求めているにもかかわらず、あなた方からその理由が一切出てこなかったわけですよ。今野さんからも、渡辺さんからも。それで仕方なく、私は２回目を出して、２回目を出しても、同じことをやってるから、同じようなことを。何でしたっけ、個人情報の委員会で、今年、ちゃんとしたものが、その辺の結論が出てるにも関わらず、それも理解せずに、前よりも悪い、やり方をしてるわけですよ。真っ黒けどころか、何の文書も出さないで。だから、さすがに僕も、説明を求めてるけど、あなたからも渡辺さんからも一切説明はなかった。

[野村]

「出さないと決めた」の一点張り。何もね。説明がない。唯一、僕、あんまりしつこく聞くから、ポロッろ、こぼしたのが、「副町長が言った」と。ようやく副町長から話を聞いたら、副町長が勘違いしてたわけですよ。自分たちが、自分たちが勘違いしてる。しかも、あなた方は何も答えられないでね。

[野村]

今野さんも含めてですよ。指摘された当たり前ですよ。「何をやってるんですか？」と、「担当者なのに」と。渡辺課長なんか、もっとね。それを、それなのに、副町長と３人がかりで、「あなたの言い方は問題がある」と、人の個人攻撃にすり替えてるわけですよ。記憶ありますよね？個人攻撃、「あなたは、なんか自分が偉いかのような言い方をしてるよな」と、「してるような」と、副町長が言い出して。それに対して、今野さんと渡辺さんで、一斉に頭を下げて、そうだそうだ、と態度で示してね、そういうことをやってる。

[今野]

そのつもりはない

[野村]

それは記録が残ってるから、聞けばわかるよ。お互い録ってるわけですから。あんなね、あんなやり方されたら、到底、副町長とお話になりませんよ。そのね最初ね。

話の出だしのところだって、もう最初っから感情が高まってますもん。僕も、そういうところあるけど、僕はある程度抑えようと努力をしてたよ。

[今野]

いや、そんなふうには思えなかったよ。

[野村]

それはあなたの印象ですよ。

[今野]

いや、でも、それはお互い様じゃない

[野村]

それは後で聞けばわかります。後で内容聞けばね、少なくても、あの声のトーンだとか、その印象とか、言い方は別にして、実際、その猫の状態に至った経緯に対してはやった方がうつろなんですよ。

[今野]

いやそんなことはないと思うんですけど

[野村]

なぜですか？説明してください。

[今野]

いや、お互い様じゃないですか？それは。

[野村]

いや、私が１回目に出してね、説明できなかったでしょう？何にも。

[今野]

いやいや、それはそうなんですけど

[野村]

渡辺さん、何の説明もないんですよ。

[今野]

ただ、前回の話し合いは、そうじゃないんじゃないですか？

[野村]

違う。言ってるのは、元々、その前回の話し合いに至る経緯に、おいて、あなた方の説明って、あの後、何の説明なくて「出さないと決めたから」「もう決めたこと」の一点張りなんですよ。何もね説明がなかったんですよ。工藤さんからも、あなたからも、渡辺さんからも。

[今野]

はい。

[野村]

理由はなかったですよね？

[今野]

ですから

[野村]

聞いてるのは、理由を言いましたか？

[今野]

ですから

[野村]

理由を聞いてるんですよ。「ですから」って、大事なことに相手のことにちゃんと答えてからにしなさいよ。

[今野]

いやいや、お答えしますけど

[野村]

だから理由は言いましたか？あなた方は。

[今野]

ですから

[野村]

「ですから」じゃないって。「ですから」って、反論なんだよ。反論する前に、相

手の質問に答えなさいよ。僕の質問に・

[今野]

お答えしてます。

[野村]

いや反論、あなた方は、僕の疑問に対して

[野村]

すいません、反論と答えがどう違うのか、よくわかんないんですけど。

[野村]

反論って、相手の言うことを聞かずに、自分の疑問を、反論・・・相手の質問にちゃんと答えてから、別の質問をするんだったらいいよ。あなたの「ですから」というのは、自分が言ってることを、また言い直そうとしてるよ、相手の言うことに答えないで。何度も僕は聞いてるのは、しつこく聞いてるのは、理由を聞いてるでしょ？いま聞いてるのは、あなた方が、１回目２回目のときに、出さない理由を僕にちゃんと説明しましたか？

[今野]

ですから

[野村]

「ですから」「ですから」だよ。相手の質問に答えないで、「ですから」だよ。答えましたか？答えてないでしょう。

[今野]

いや、だから業者さんと

[野村]

「だから」だよ、また「だから」だよ。そんなの関係ない。何度も言ってる通り、「業者が言ったから出さない」なんてことやってたら、あなたの認識はそんなレベル、「『業者が出さない』といったものを出さないでいい」っていうね、レベルだということで、私は理解しましたよ。あなたのレベルでは。到底、そんなの通じな

いよ。「なにを考えているんですか」ですよ。

[今野]

野村さんに通じないということですよね。

[野村]

いや、行政も、行政のことある程度わかってる人、政治行政のこと、ある程度、分かってる人からしたら、全く通じないよ。あなただけだよ、そんなこと言ってるの。「『業者が出さない』と言ってるから、出さない」っていうのはね、あなただけだよ、そんなに通じると思ってるのは。

[野村]

でね、あんたがそんな程度ということが分かりましたよ。その程度というのは、大変失礼ですけどね、そんな程度でね、情報公開の、判断をしてるんです。どっちにしろね今回の件についてはね、あなたと、渡辺課長から、そんな程度の説明しかできない、そんな程度の、説明しかできないんでね、文章の流れとしては。そこでね、町長がハンコおして完結ですよ。

[野村]

そこに副町長の、入る余地はないんですよ。文書の、町としての意思決定の中では。違ってます？

[今野]

そうですね。

[野村]

でも、あなたがボロッとこぼしたのは、副町長の意見を、全面的に採用して、あれを決めたんですよ。町長もあれを言ってたからと。あなた今ね、あなた今ね、「業者が言ったから」と、言ってるけど、思い出したよ。そのとき、僕も散々同じようにと言って、しつこく食い下がって、ようやく出てきたのが、副町長がこういうこと言ってたというのが、ようやくポロっと出てきたんですよ。思い出しましたよ。で、副町長、呼んで、やってみたら、副町長の勘違いだったわけですよ。で、あの

トーンですよ。

[今野]

はい。

[野村]

あんな状態になるのは、目に見えてますよ。

[今野]

それはおかしくはないと思うんですけど、お互いだと思うんですけど

[野村]

あのね、あのね、あのときも、どちらの方が感情的で、どちらの方が冷静だったか、後で、どっちにしろ公開しますからね、これね。これ、あなたの言ってることも、渡辺さんの言ってることも、結構、恥ずかしいこと言ってますよ。他の、地方自治体の職員から見て。「なんだこの人たち」と言うようなこと言ってますよ。

[今野]

ええ。

[野村]

前回の、町長と副町長の話についても、どう見ても、あれねって、袋叩きですよ。しかも、どちらかというと、あなた方の言ってる論理というのは、自分たちの、無知とか、思い違いで、あの状態になってしまったにもかかわらず。相手の言い方が悪いということをね、個人攻撃してるんですよ。

[今野]

そんなことは

[野村]

あなたがそう思っているんだったら、これも含めてね、後でね、後でね、本当にあなたが言ってることがね、正しかったのかどうかは、明らかになるでしょう。ただ、当事者同士で言ったってね、当事者同士が我を張り合ってたら、こんなに、いつまで経ったって、平行線のままだから、そんなのは。どこの世界だって。だから、第

三者というのがね、あるわけですよ。第三者委員会とかあるわけですよ、紛争のときに。裁判所ってのが、出てくるわけですよ。今回でいけば、第三者にあたる、第三者じゃないけど、今回でいけば、町長になるわけですよ。この平行線の状態で、話をしたって、どんな状態になるか目に見えてるよ。

[野村]

だから、町長が入ってくるのは当たり前で。僕、今、話してるの、これあなたが判断することじゃないから、町長が僕は、今回、説明を受けるにあたって、町長が入って、町長が決裁してるわけだから、何で、副町長が入って、それを仕切ったのか分からないけど。でも、少なくとも経過を見ればね、あなた方に問題があるよ。２回も出し直しさせて、勘違いしてて、文書を出さないで、やり直すという状態は。

[今野]

それは、あの場でも、こちらから謝罪しましたよね？

[野村]

あのときは認めたけど、その後の逆襲、あなた方の逆襲は、個人攻撃だよ。「あなたの言い方が悪い」と、「そうだよな」と。渡辺課長とあなたに、同意を求めて、思いっきり個人攻撃ですよ。それは当事者同士の選択だから、あなたは何も言わなくていい。町長に、出してくれて、頼んでることを、町長に聞いて、町長の返事を渡せばいい。あなたと僕は、いま平行線だから。あなたを決して認めないし、自分の非を。

[今野]

まあ、そのぅ

[野村]

言わなくていい、それ以上は。それ言わなくていい。その証拠のあることだから。これもそうだよ。もちろん、証拠録るよ、僕は、何でも。あんなことやられて、僕言ってることには、冷静に聞けば、理由がある。僕が町長に何で入って欲しいと言ってるのは、決定権者だから。前回、今まで、すったもんだしてるのは。なんで意

思決定に関係ない副町長が、でしゃばって、自分の勘違いで、（不明）ちゃったから、今回、こんな状態になったわけですよ。でねあなたも今、あの声を荒げてる通り、何だ

[今野]

荒げてはないですよ。

[野村]

冷静なトーンじゃないんですよ。あなただって。

[今野]

そうですか。

[野村]

冷静なトーンじゃないですよ。僕の聞いてることに対して、頑なに、頑なにそれを認めようとしない。それ、いいですよ、お互い様だから。お互い様というか、当事者同士だから。だから、そういう状態を、そういう状態を和らげるために、何度も言ってるように、喧嘩だったら仲裁者、第三者委員会、直接、紛争関係にない人が、立つのが当たり前で。今回で言えば、何度も言ってる通り、町長が出るべき場です。入口に「何かあったら、声掛けてください」って言うんだったら、このときじゃなくて、いつ出るんですか。僕の話は、ここまでです。あなたが、「いやいや」ということじゃなくて、あなたは、ただ粛々と町長に「こういう話がありました」と、いう打診をして、回答に私に答えるだけ。当然、出ないんだったら、その理由は、付け加えられるはず。僕は、理由を求めますからね。もし出ないんであれば。「なぜですか？」と、理由を求めますからね。別に 14 日じゃなくても構いません、「小林さんと、副町長だけじゃなくて、町長も」と、言ってるわけなんで、その時にできなくて、もっとちょっと先になる、また 1 週間 2 週間先になるかもしれませんけど、それは構いません。（不明）は困るから。ちょっと、それは打診してもらえません？

[今野]

話しはしますけど、私決めることじゃないんで

[野村]

あなた決めなくていいよ。ちゃんと話をして、町長の回答を答えてください。ただし、自分が入らないっていうんだったら、その理由を、求めてください。

[今野]

そのようには話させていただきます。

[野村]

お願いします。失礼します。

[今野]

21 日にお話されますよね？

[野村]

21 日に・・・その予定は別ですよ。だから、副町長と、情報公開の予定は、工藤さんからさっきもらってね、21 で一旦決めてもらったんだけども、そのときに前回と全く同じようになることが、容易に想像がつくから、町長に入ってもらった方がいいと、仕切り直しのつもりなんですよ。「21 日じゃなくても構わないから、町長に入って欲しい」と。21 日入ってくれれば、それが一番ありがたいんですけど。町長が（不明）であれば、副町長と小林さんと、３人の日程が合う日。僕は、完全に合わせますんで。お願いします。

[今野]

はい。どうなるかわかんないんで、一応、伝えはしておきます。

[野村]

お願いします。ご連絡お待ちしていますんで、お願いします。